

以縁地爲名

出雲筵帖裏白布六枚南三枚北三枚爲外記史座、

〔梵舜日記〕寛永五年三月廿一日、白川加兵衛取次備後之疊。二帖持來也、

〔延喜式六齋院〕冬料鋪設夏通用四

錦端疊二枚長各八尺、廣五尺、○中略右齋王座料、毎年申官請受、

〔延喜式三十八掃部〕年料鋪設

供御白地錦端帖四枚夏冬各二枚、長一丈、廣五尺、○中略

右依前件預前儲之、夏薄冬厚、

〔西宮記臨時九〕内親王著裳

北御障子敷錦端疊四枚、其上鋪地敷并茵爲親王座、○中北二間立四尺御屏風二帖、鋪錦端疊爲結

髻座、

〔權記〕長保三年十一月十三日、亥二刻、今上○一條一皇子○康於飛香舍○中宮有御著袴之事、○中皇子

亦渡御、飛香舍南廂額間、鋪御座錦端疊二枚、地敷二枚、茵一枚、

〔名目抄雜物〕兩面リヤウ

〔安齋隨筆後編十一〕一兩面縁之事、滋野井亞相の御説聞書、左之通御座候、

兩めん縁と申ハ、兩面錦ノ茵ニ用候へり、故略稱して兩面縁と云也、其實ハ兩面錦縁ノ略也、

〔大饗雜事〕一辨少納言座兩面事

辨少納言座の兩面疊は、兩面文は高麗にて、重縁と存候處、或所ニ大饗時の疊として候が、縁の兩面文の普通のわちがへのおしく、みにて候は、以何説可用候哉、

兩面はわちがへ也、非高麗文はおしく、み歟、且禁中如此候也、大中納言圓座縁もわちがへにてこそ候へ、